

日本リハビリテーション 病院・施設協会誌

Japan Association of Rehabilitation Hospital and Institution

194号

2025年3月発行

■ 巻頭特集

地域リハビリテーションを基盤とした
災害リハビリテーションへの取り組み

■ REPORT コーディングでチームが変わる

■ REPORT 事務ステップアップ研修 医療・介護に携わる事務スタッフへ

■ 特別寄稿 シルバーリハビリ体操指導士養成事業

■ 特別寄稿 第8回アジア太平洋作業療法学会開催報告

ZOOMIN 会員病院・施設

医療法人共和会 小倉リハビリテーション病院



一般社団法人 日本リハビリテーション病院・施設協会

リハビリテーション・ケア 合同研究大会 大阪2025

動かな
あさまへんで

動いてナンボ!
動かしてナンボ!

—「動く」が支える 人・地域・日本—

2025年11月21日(金)・22日(土)

マイドームおおさか(大阪府中央区本町橋2番5号)

大会長

島田 永和

はあとふるグループ代表

大会顧問

宮井 一郎(社会医療法人大道会 副理事長・森之宮病院 院長)

実行委員長

古賀 阿沙子(八尾はあとふる病院 在宅事業マネジャー)

主催

一般社団法人 日本リハビリテーション病院・施設協会 / 一般社団法人 回復期リハビリテーション病棟協会 / 一般社団法人 全国デイ・ケア協会
一般社団法人 日本訪問リハビリテーション協会 / 全国地域リハビリテーション研究会 / 全国地域リハビリテーション支援事業連絡協議会
NPO法人 日本リハビリテーション看護学会

大会事務局

はあとふるグループ(大阪府羽曳野市榎山100-1) TEL:072-953-0046 / FAX: 072-953-1552

運営事務局

〒532-0003 大阪府大阪市淀川区宮原2-14-14 新大阪グランドビル6F 株式会社エーイー企画内
TEL: 06-6350-7247 / FAX: 06-6350-7164 / E-mail: rc2025@aeplan.co.jp

©cui-daore



Register Here

CONTENTS

- 3 巻頭特集
**地域リハビリテーションを基盤とした
災害リハビリテーションへの取り組み**
- 15 巻頭言
「想定外」を「想定内」に。日頃の心構え
小倉 雅
- 16 **REPORT 1** コーチングでチームが変わる
～医療・介護現場で働くスタッフのためのコーチング法～
井上 清美
- 20 **REPORT 2** 事務ステップアップ研修会 医療・介護に携わる事務スタッフへ
日本リハビリテーション病院・施設協会 研修委員会
- 22 **特別寄稿** シルバーリハビリ体操指導士養成事業
大田 仁史
- 26 **特別寄稿** 第8回アジア太平洋作業療法学会開催報告
大庭 潤平
- 28 **連載** 病院・施設におけるコーチングの活用
リフレーミングがコーチングをパワーアップする
井上 清美
- 30 **トピック 1** 地域における臨床研究のススメ15
データ分析の目的を整理する
紙谷 司
- 32 CURRENT TOPICS 厚労省関連ニュース
- 33 **ZOOM IN** 会員病院・施設
医療法人共和会
小倉リハビリテーション病院 (福岡県)
- 38 **Information**



「想定外」を「想定内」に。 日頃の心構え



小倉 雅

日本リハビリテーション病院・施設協会 理事
社会医療法人恒心会 恒心会おぐら病院 理事長

2024年1月1日午後4時10分ごろ発生した能登半島地震から早いもので1年余が経過しました。また同年9月には豪雨災害が追い打ちをかけました。2025年1月28日時点でお亡くなりになった方は508名そのうち災害関連死が280名、行方不明の方が2名、水害による死者が16名と報告されています。

お亡くなりになった方々へ心からのお悔やみと被災され今も避難所生活等の苦難を抱えていらっしゃる方々へお見舞い申し上げます。

石川県では石川JRATを中心に災害リハビリテーション活動を全国のJRATの方々と必死に活動されたものと思います。鹿児島県からも微力ながら、R-スタッフ L-スタッフを含め11名が今回の活動にお手伝いさせていただきました。これまでも熊本、岡山、佐賀での災害時にもお手伝いしてきましたが、災害から多くのことも学ばせていただいたように思います。

災害リハビリテーションの普及、スタッフ研修、ネットワークの構築など課題は山積しています。言葉にすれば簡単なことのようにですが、地域JRAT活動は基本的にボランティア精神に基づくものであれば、活動の進展は遅々として進まないジレンマも抱えています。

鹿児島県は過去多くの災害を経験してきまし

た。台風による暴風災害、大雨による豪雨災害、加えて桜島噴火そして南海トラフ大地震による津波災害が喫緊の災害対策を要するものと考えています。鹿児島県は薩摩半島と大隅半島の2つの半島で構成される地域です。能登半島地震でも露呈したように、大規模災害による交通インフラの麻痺は自分事として認識し、被災地域でカバーできるように準備だけは必要かと思えます。

幸いに鹿児島県は「地域リハビリテーション体制整備」が平成11年3月から始まり、現在は9圏域16医療機関が「地域リハビリテーション広域支援センター」の指定を受けて活動しています。

令和3年から3年間は鹿児島県が主導して鹿児島県災害リハビリテーション研修会が開催され、市町と地域リハビリテーション広域支援センター、鹿児島JRATで災害時のリハビリテーションについて意識を共有したところです。

「喉元すぎれば…」 「想定外の出来事…」と、とかく日本人は押し迫った危機に対して、及び腰になる傾向があるように思えます。

地域力を高め、自分事として考え、安心で安全な地域づくりの一環としてのJRAT活動そして地域リハビリテーション活動を推進し、この地に生まれ、平穏に暮らせる幸せを追求していこうと思っております。



**※このページ以降の誌面をご覧ください。場合は、
当協会への入会が必要です。**

ご入会のお手続きは下記へ



【入会について】

<http://rehakyo.jp/about-join>